

## 令和6年度 神奈川県立大師高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

日時 令和6年5月29日(水) 15時00分～16時30分

場所 大師高等学校 会議室

出席者 [委員]

中村ふじ委員(会長) 熊木節子委員 鈴木伸哉委員 原千代子委員 佐藤正信委員  
[学校側(事務局)]

校長(副会長) 副校長 事務長 教頭 菅原総括教諭 松矢総括教諭 青柳総括教諭  
新澤教諭 山下総括教諭

### 【第1部】 全体会 \*司会:教頭

#### ○開会のあいさつ・委嘱状交付 (校長)

着任より二ヶ月たち、学校のいろいろなところが見えてきた。教員は生徒と近い距離で取り組んでいる。大師高校をより良いものにしていくために、活発な意見をほしい。

#### ○出席者自己紹介・会長互選

中村委員を会長に選出

#### ○令和6年度本校の学校運営について(副校長)

2020年度に学校評価の中で4年間の目標を立てて取り組んだ。現在は最初の4年間が終わった状態である。これからは、今後の4年間で学校として何をやっていこうかという状態である。これまで「Daishi Dream Partnership (DDP)」で誰からも愛される学校づくりを行ってきた。第一に、「学校は楽しいところだ」ということを達成するために、生徒を支える体制を整えることがこれまでの4年間の目標だった。そのような学校運営は、4年間を通して段々と軌道に乗ってきた。今回のグランドデザインでは、「あなたが、今、こだわることは10年後に効いてくる」ということを中心においた。具体的には、学ぶべきことは学び、身につけるべきマナーは身につけるということである。このことを中心に据えながら、これからの4年間の学校を運営していきたい。

### 【第2部】 部会

#### (1) 部会ごとに協議

##### Aグループ(学校生活サポート部会)

司会:副校長 書記:田中教諭

中村委員 熊木委員 佐藤委員 青柳総括教諭 新澤教諭

(学校):授業以外の活動で生徒の長所が発揮される場面が多くみられる。文化祭や部活動でリーダーシップを発揮する生徒がいる。

(委員):経営の視点での話になってしまうが、校長が短いサイクルで変わって、学校目標や学校運営を行うのが大変ではないかというのが第一印象である。また、学校目標の主語は、生徒であるべきだと思う。現在のものは主語が教員となっているのではないか。加えて、目標と評価の観点がずれているのではないか。そのため、生徒の様子が評価の観点から見えてこない。目標と評価の観点を一致させ、余分な修飾語を取り払って、目的と評価の観点を簡潔な形で一致させるべきである。そうすることで、生徒の具体的な

様子も文章にあらわれてくるのではないか。そのような点を修正して今後の DDP を達成してほしい。

(学校) : 生徒の実際の姿を見ている教員側はどう考えるか。

(学校) : 部活動の参加率を上げるという目標を設定している。また、最終的な目標は自己肯定感を上げることとしている。

(委員) : 目標設定は生徒の姿に関することを具体的に書くべきである。そして、それを達成するために、目標に準じた具体的な方策などを打ち出していくべきだと考える。

「Daishi Dream Partnership」を達成すると生徒がこういう姿になるということが明示されるとなお良い。

(学校) : 中学校で生徒を見ている立場としてどう考えるか。

(委員) : 今の生徒は精神的に幼いと感じる。また、そのような生徒が抱えている問題は、内面に関係するものが多くなっている。大師高校には、小中学校で一生懸命やっているが成果が出なかったり、友達との関わり方がちょっとうまくいかなかったりというような生徒が多いと思われる。そのような生徒を育てていくために、これまでの DDP で掲げていた「学校は楽しいものだ」ということを実感してもらうことが大切である。また、そのような生徒には居場所づくりが必要である。学校が生徒の居場所になれると良いと思う。以上の点から、大師高校には、生徒の足が向くような学校づくりを推進して欲しい。高校生活を通して自己肯定感が高まるような出来事があれば、生徒が社会に出た後も良い方向に生きていけるのではないか。

(学校) : 地域の子供達をみている立場としてどう感じるか

(委員) : 高校は小中と違って、大人の階段を上がる一步手前のところであると考え。そのような中で PTA も生徒の役に立つため、学校環境をよくするために予算を使用していくべきである。

(委員) : PTA も学校の事業に参加できるようにすればよいのでは。そうしたら、事業をより多く行うことができる。

(学校) : 地域の方を呼んで、講師として授業を行ってもらうのはどうか。PTA が主体で取り組みを行うのも良いかもしれない。保護者のなかにも稀な経験をしている人がいるかもしれないので、アンケートなどを行うことで推し進めていくのも面白いかもしれない。

(学校) : 今の生徒をみると、友達との関係性を改善させないと社会に出たときに今以上に人間関係で苦勞するのではないかと感じてしまう。だから、友達関係を活発にするような取り組みを行うべきである。行事の中では異なる学年間との交流を図ることも重要である。

(委員) : 他人を大切にすることは、転じて自分を大切にすることにつながるのではないか。

(学校) : 学校目標の主語を生徒にすることはとても大事なのではないかと考える。PTA や地域、周辺の中学校や小学校との関係性がまだまだ薄いのではないか。今後更に取り組んでいきたい。学校目標などについても作らなければいけないという義務感から作るのではなく、生徒主体の視点で設定していくべきである。

(委員) : 大師高校の卒業生が活躍している機会を見ることが多くある。色々な考え方があると思うが、下層と上層の間の 6 割を上層に持っていくような施策をやっていくべきではないか。

(学校) : 授業などで目立たないような生徒でも部活動や委員会活動、行事などで活発な動きをみせる生徒もいる。今年は行事などでも生徒がより主体的に動いていくようにしたい。これまでやっていなかったことをできるようにこの4年間で取り組んでいきたい。それに付随して地域での評価も良くしていきたい。

(委員) : 自分ができたから自己肯定感が上がるというわけではない。色々できる生徒の2割をより輝かせるという方法でも、その生徒に関係のある生徒の自己肯定感もあげることができる。

(学校) : テコンドーで世界チャンピオンになった生徒がいる。体育祭で一番速い生徒を決めるといような取り組みも行っている。また、勉強面でもテストの点数の伸び率が高い生徒を表彰したりしている。このような取り組みはやる意味が絶対あると思うので続けていきたい。また、大師高校の良いところは自転車通学の生徒が7割いること。そのため、小中連携をできる土壌はあるのではないかと。

(学校) : 。四谷地区は幼稚園から高校まで全部あるというのが強みである。

#### Bグループ (学習・進路サポート部会)

司会 : 教頭 書記 : 山下総括教諭

鈴木(伸) 委員 原委員 菅原総括教諭 松矢総括教諭 山下総括教諭

(学校) : 授業改善をおこない、各教科でふさわしい生徒への学習の場の提供をおこなう。また、一人一台パソコンを活用した授業については、現状では活用した授業が少ないので研修などをおこない広めたい。また、中学校への授業見学の際にパソコンの活用例を参考としたい。

(委員) : ICTを活用した授業はどのようなことが行われているのか。

(学校) : 地理総合の授業では、ソフトを利用した授業が行われている。

(学校) : 教材提示などが中心となっている。

(学校) : 専門学校では一人一台パソコンを活用した授業はどのようなものが行われているのか。

(委員) : 情報系の専門学校なのでソフトを活用したゲーム開発等の授業をおこなっている。

(委員) : 在県外国人の生徒などは翻訳アプリが普及しているのでそれを活用したり、日本語については日本語学習アプリを利用している。

(学校) : 近年の進路状況の傾向として就職する生徒の割合が増えている。また、高卒の求人数についても年々増えている。

(学校) : 1年次からキャリア教育を充実させて卒業後の進路を生徒に常に意識させている。目標の一つとして卒業年次生の進路未決定者0を目指している。

(委員) : 大師高校の進路指導は1年次からきめ細やかなキャリア教育を行っている印象がある。

(委員) : 在県外国人で大師高校の卒業生が上級学校に進学し、その後就職をして頑張っている。先輩たちとの関係を継続していくも大事である。

(委員) : 家族滞在の在県外国人が高校や上級学校卒業時に就職先が内定していれば在留期間が延長される。

(学校)：ホームページや学校説明会などで本校の魅力や生徒の活動の様子を伝え、中学生や地域の方々に本校の本来の姿を知ってもらおう。生徒が入学して3年間、学業や行事、部活動など頑張っって高校生活を過ごし、3年次に進路先をしっかりと決定して卒業していくように教員全体で取り組んでいきたい。

(委員)：在県外国人の生徒の中にも3年間の高校生活を頑張っって過ごし、上級学校等への進路先を決めて卒業していく者も多い。そのような先輩にも学校へきてもらい在県外国人の後輩に話をしてもらおう事の意義は大きい。

## (2) 協議の報告

### Aグループより報告

多くの方の意見を聞いて、本校の生徒は授業だけではなくそれ以外の機会が良いところが見える場合が多いのだと感じた。今後そのような取り組みを増やしていきたい。管理職が1年や3年で変わっていくため、4年間のスパンの目標は難しいのではないかという意見も出た。また、目標や評価の観点も「生徒」が主語になるべきではないかという意見も出た。本校の中間層を上を引き上げていくことが大切だという意見や、上の方の生徒を伸ばすことで大師高校全体の生徒の自己肯定感が高まるのではないかという意見も出た。

### Bグループより報告

一つ目は、ICTの利用について。研修なども行いICTを使った授業を行っていくことを推進していきたい。保護者の方から、一人一台端末を買っているのに使用頻度が少ないという意見が出ているので、この点は早急に考えていきたい。

二つ目は在県外国人の生徒について。大師の在県外国人の卒業生が就職し成果を出している。在籍している在県外国人の生徒に対して良い影響を与えるものである。

三つ目は就職について。近年では就職の割合が上がってきている。勉強を苦手とする生徒に対してどのような進路先を提示していくか。生徒の状況を見ながら、進路先を提示できるようになっていくべきではないかということをお話合った。

## (3) 事務連絡（研究広報グループ）

第2回の学校運営協議会は11月6日（水）の5時間目の授業を見学し、その後、6時間目相当で協議会を行う。第3回は現在のところ未定であるが決定次第ご案内する。

## (4) 閉会のあいさつ（校長）

「大師高校だから行きたい」と言えるような高校づくりを今後は目指していく。第二回の評議会ですべて具体的な方策を提示したい。